

$$a_n = \frac{1}{2^{\sqrt{n}}} = \left(\frac{1}{2}\right)^{\sqrt{n}} = \left(\frac{1}{2}\right)^{n^{\frac{1}{2}}} = (2^{-1})^{n^{\frac{1}{2}}} = 2^{-n^{\frac{1}{2}}} \quad \text{小さくなる}$$

•  $a_n > 0$  はいえる。

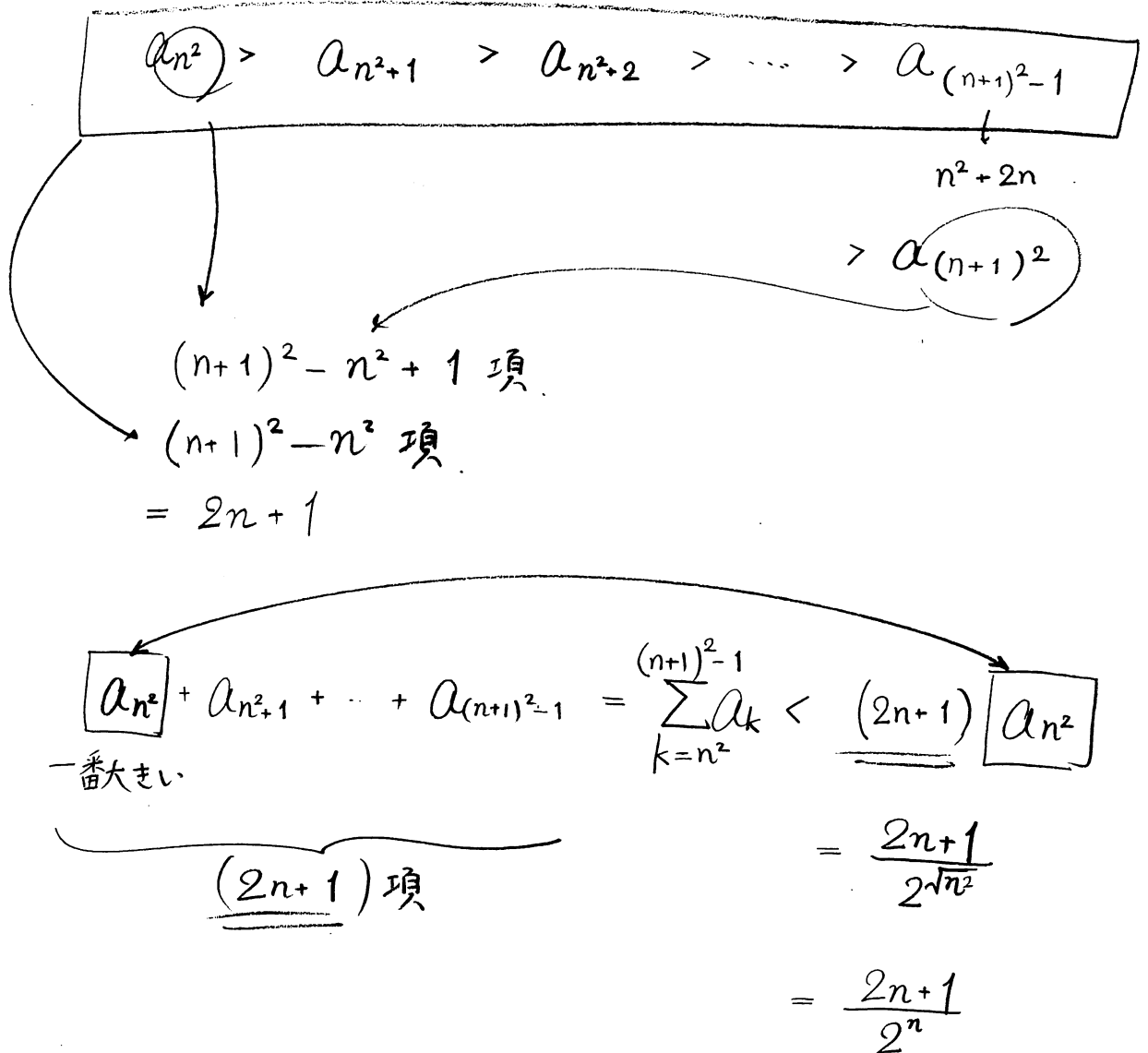
→ 正項級数

→ 単調増加  $S_n = \sum_{k=1}^n \frac{1}{2^{\sqrt{k}}}$

← 上に有界であることを示す。

(収束する)

•  $a_n$  は単調減少は明らかといえてよい。



•  $S_{n^2} = \sum_{k=1}^{n^2} \frac{1}{2^{\sqrt{k}}} < \sum_{k=1}^n \frac{2n+1}{2^n} \quad ??$

$$\forall m \in \mathbb{N}, \exists n \in \mathbb{N}, n^2 \leq m < (n+1)^2$$

$$S_{n^2} \leq S_m < S_{(n+1)^2}$$

$n$  を正の整数とする。

関数  $f$  が点  $a$  を含む開区間  $J$  において、

$n$  回微分可能であるとする。

このとき、 $J$  の任意の点  $x$  に対して、

$0 < \theta < 1$  の範囲の  $\theta$  が存在して、

$$f(x) = \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k + \frac{f^{(n)}(a + \theta(x-a))}{n!} (x-a)^n$$

$J$  の点  $x$  を任意にとりて固定する。

$x = a$  のときは明らか？

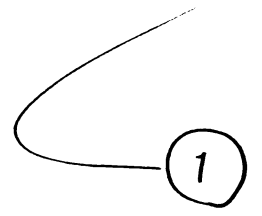
$x \neq a$  のときを考える。

$$A = \frac{n!}{(x-a)^n} \left( f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k \right) \text{ と定める。}$$

$J$  を定義域とする関数  $F(t)$  を、

$$F(t) = f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(t)}{k!} (x-t)^k - \frac{A}{n!} (x-t)^n$$

と定義する。



①

関数  $f$  は  $J$  において  $n$  回微分可能だから (仮定から)、  
関数  $F(x)$  は  $J$  において微分可能である。?

(整式は  $C^\infty$  級とわかっていることにするの?)

$a$  と  $x$  は  $J$  の点だから、平均値の定理より、  
ある  $\theta$  ( $0 < \theta < 1$ ) が存在して、

$$F(x) = F(a) + F'(a + \theta(x-a))(x-a)$$

が成り立つ。

ここで  $F(x)$  と  $F(a)$  を計算すると、

$$F(x) = f(x) - f(x) \overset{-0?}{=} 0.$$

$$F(a) = f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k - \frac{A}{n!} (x-a)^n = 0$$

( $A \in \mathbb{R}$  代入)

したがって、

$$F'(a + \theta(x-a)) = 0 \quad \text{---} \quad \textcircled{2}$$

である。

F(t) の微分を計算しよう。

① の右辺を t で微分する。

$$\frac{d}{dt} f(x) = 0.$$

$$\frac{d}{dt} \cdot \frac{A}{n!} (x-t)^n = -\frac{A}{(n-1)!} (x-t)^{n-1}$$

$$\frac{d}{dt} \left( \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(t)}{k!} (x-t)^k \right)$$

$$= \frac{d}{dt} \left( f(t) + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{f^{(k)}(t)}{k!} (x-t)^k \right)$$

$$= f'(t) + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{1}{k!} \left( f^{(k+1)}(t) (x-t)^k - f^{(k)}(t) \cdot k(x-t)^{k-1} \right)$$

$$= f'(t) + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{f^{(k+1)}(t)}{k!} (x-t)^k - \sum_{k=1}^{n-1} \frac{f^{(k)}(t)}{(k-1)!} (x-t)^{k-1}$$

$$= f'(t) + \sum_{k=1}^{n-1} \frac{f^{(k+1)}(t)}{k!} (x-t)^k - \sum_{k=0}^{n-2} \frac{f^{(k+1)}(t)}{k!} (x-t)^k$$

$$= f'(t) + \frac{f^{(n)}(t)}{(n-1)!} (x-t)^{n-1} - f'(t)$$

$$= \frac{f^{(n)}(t)}{(n-1)!} (x-t)^{n-1}$$

以上より、

$$F'(t) = -\frac{f^{(n)}(t)}{(n-1)!} (x-t)^{n-1} + \frac{A}{(n-1)!} (x-t)^{n-1}$$

$$= \frac{(x-t)^{n-1}}{(n-1)!} \left( A - f^{(n)}(t) \right)$$

となる。

したがって、 $\tau$ ,  $[t \text{ は } a + \theta(x-a) \text{ を代入して}]$

$$\begin{aligned} F'(a + \theta(x-a)) &= \frac{(x - (a + \theta(x-a)))^{n-1}}{(n-1)!} \left( A - f^{(n)}(a + \theta(x-a)) \right) \\ &= \frac{(1-\theta)^{n-1} (x-a)^{n-1}}{(n-1)!} \left( A - f^{(n)}(a + \theta(x-a)) \right) \end{aligned}$$

$\theta \neq 1$ ,  $x \neq a$  ならば、②より、?

$$f^{(n)}(a + \theta(x-a)) = A \quad ?$$

である。Aの定義から、

$$f^{(n)}(a + \theta(x-a)) = \frac{n!}{(x-a)^n} \left( f(x) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(a)}{k!} (x-a)^k \right)$$

である。

関数  $f(x)$  は 閉区間  $[a, b]$  において  $(n-1)$  回 微分可能かつ、  
 $(n-1)$  次 までの 導関数 は 閉区間  $[a, b]$  において 連続とする。  
 さらに、 $f^{(n-1)}(x)$  が 開区間  $(a, b)$  上で 微分可能ならば、  
 任意の 自然数  $m$  に対して  $a < c < b$  なる  $c$  が 存在して、

$$f(b) = f(a) + \frac{f'(a)}{1!}(b-a) + \frac{f''(a)}{2!}(b-a)^2 + \dots$$

$$\dots + \frac{f^{(n-1)}(a)}{(n-1)!}(b-a)^{n-1} + \frac{f^{(n)}(c)}{(n-1)!m}(b-a)^m(b-c)^{n-m}$$

$$\left\{ \begin{aligned} F(x) &= f(b) - \sum_{k=0}^{n-1} \frac{f^{(k)}(x)}{k!} (b-x)^k \\ g(x) &= (b-x)^m \end{aligned} \right.$$

という 2 つの 関数 を 考える。